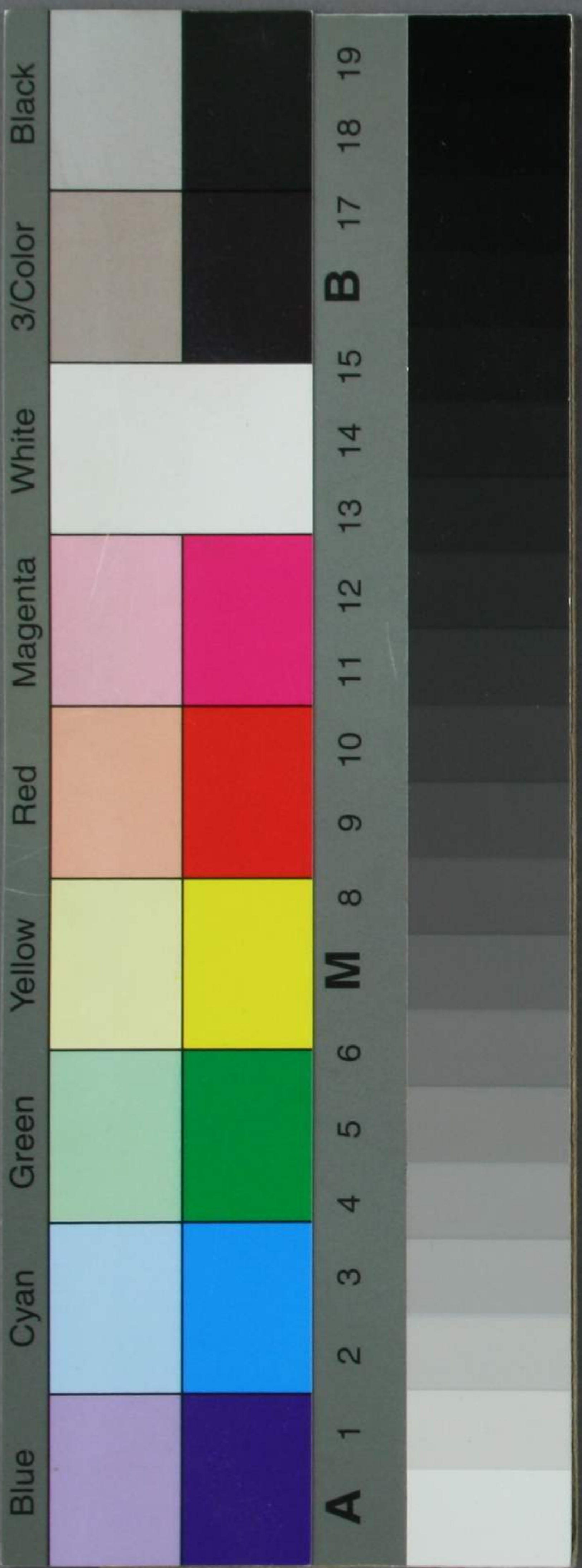




大谷本善華

1403

卷 2

かくとく かんの中にある人 かくの松がてらてらん
 かくふ面ひつまといやけー 二さふまをきていけ **松** まめ
 かくろー ーろー けけよかど字とてく、とめハあやう
 が細めやア あるやー へんあう 展風とくこまてあまんのさ
 かく **ドレ** えせや。ぎぬろ ーろ 席金がやけらでむねの
 やらうハまろいぞく げんざう の酒はとろろ **除** んや
表 あれふ ^{てふ} 業ドやア まあまや 傘へ切り抜くのはお茶
 のみ ^お ぐや ^お んべらむア 安くあやア ぐあ ーんろ
 おれが かく字とあて ーんろ 待よく トりあう かく
 かくれさ

[illegible]

返すとあやさア **松** その席の横糸をよめば
 人をつひすと **殊** うさアね人自力番の惣寄
 合人組が **松** 店更が来うまに佛と
 出さうあきらめらふけが金佛とをあやア
 やもとあやふうまで居る **殊** モニ五何れやせんが
 備政が極川のあうふけ二盛の煮物であ
 ぞえんねんやをエベロとくアバアと
 ぶらうとて **大せい** アハハハトひつて
 中々のあはれとく **今** いつと

松 松も綿温石でもねえさ [さ] こそ温石もあんな
ぐ [松] 三馬とよ作若が川れとねえく [ひろ] ねえの
ど [さ] ちやええはさうわ [つ] つかあんなさうもさ
ね [松] こそねえさ [さ] ぶあさ [さ] さい
まきんあふれも [さ] ねえく [さ] ねえく [さ] ねえ
ね [さ] ねえ [さ] ねえ [さ] ねえ [さ] ねえ [さ] ねえ
さうさ [さ] ねえ [さ] ねえ [さ] ねえ [さ] ねえ [さ] ねえ

よ [さ] ねえ [さ] ねえ [さ] ねえ [さ] ねえ [さ] ねえ [さ] ねえ
て [さ] ねえ [さ] ねえ [さ] ねえ [さ] ねえ [さ] ねえ [さ] ねえ
向 [さ] ねえ [さ] ねえ [さ] ねえ [さ] ねえ [さ] ねえ [さ] ねえ
松 [さ] ねえ [さ] ねえ [さ] ねえ [さ] ねえ [さ] ねえ [さ] ねえ
つ [さ] ねえ [さ] ねえ [さ] ねえ [さ] ねえ [さ] ねえ [さ] ねえ
あ [さ] ねえ [さ] ねえ [さ] ねえ [さ] ねえ [さ] ねえ [さ] ねえ
ユ [さ] ねえ [さ] ねえ [さ] ねえ [さ] ねえ [さ] ねえ [さ] ねえ
切 [さ] ねえ [さ] ねえ [さ] ねえ [さ] ねえ [さ] ねえ [さ] ねえ

つていふやうな松^{マツ}ぶらうめおでま^マさうき^マう
り^マ松^{マツ}どうきと安^{ヤス}く^マる^マあ^マん^マアリ^マワ^マツ^マとく^マな^マ
つ^マき^マし^マ、^マさ^マ、^マい^マな^マ何^{ナニ}の^マな^マな^マ松^{マツ}は^マま
とハ^マわ^マら^マの^マお^マき^マび^マと^マう^マき^マれ^マん^マぞ^マあ
ゆ^マの^マも^マう^マや^マの^マ。ヒ^マネ^マワ^マツ^マと^マく^マと^マな^マ
く^マぞ^マリ^マま^マい^マや^マぶ^マよ^マモ^マタ^マ海^{ウミ}づ^マい^マま^マあ^マの^マ連^{レン}流^{リウ}ハ
え^マん^マき^マな^マな^マの^マ松^{マツ}も^マ代^{ダイ}と^マら^マじ^マて^マお^マき^マと^マ上^マ
れ^マワ^マツ^マく^マな^マら^マく^マぞ^マの^マん^マアリ^マさ^マモ^マウ^マや^マぶ^マよ^マう^マ

せ^マと^マい^マふ^マ松^{マツ}ナ^マニ^マう^マき^マの^マも^マぶ^マや^マや^マこれ^マで^マあ
や^マ町の^マ番^{バン}は^マぶ^マア^マと^マお^マ丁^{テイ}の^マん^マき^マと^マエ^マ松^{マツ}店^{テン}若^{ニギハヤヒ}
ど^マき^マ松^{マツ}ぶ^マし^マが^マあ^マな^マと^マや^マを^マ松^{マツ}あ^マれ^マが^マ番^{バン}き^マ
の^マ店^{テン}ぶ^マし^マは^マあ^マん^マが^マ今^{イマ}戸^コ焼^{ヤク}の^マあ^マの^マさ^マあ^マと^マき^マ
つ^マて^マあ^マな^マと^マアイ^{アイ}サ^サな^マら^マな^マの^マあ^マな^マが^マあ^マや^マ
の^マ火^ヒ入^イの^マや^マぶ^マ松^{マツ}火^ヒ入^イと^マ抱^ダて^マお^マき^マても^マ草^{クサ}お^マ減^{ゲン}ハ
お^マん^マぶ^マと^マと^マえ^マん^マ表^{オウ}向^{キョウ}ハ^マ草^{クサ}お^マ減^{ゲン}ぶ^マ、^マの^マ肉^{ニク}ハ
羽^ハ二^ニき^マぞ^マい^マん^マも^マお^マま^マ向^{キョウ}て^マう^マ買^カて^マと^マあ^マん^マ松^{マツ}

るんど羽二重どうぞはうつーやど齒二重あゝ
舌もみ板ハ更合で松にふぬてはう松サレ
下重はでらんが松みんが松
ナト けらうけくまがあらあゝ版あつて見
ねとようあやぶとてよあゝ口がうびれや
わう松ナニ 今来時とと折半と芋がうせ
んとて番がういゝもぢに喰わてうゝとて出
たて口まめサ さいやあゝれけるよ松あゝれ

ゆふのハツがけけあゝいし松ナセ松あゝれ
千里とまゝとさうやア地はうゑん松あん
法師ののちとう記の程とさうやアあゝと
こゝ成る後よ知れぬあゝうゑん松あ
客うあゝあゝわくゆへ松さういゝれ
いやア風のやとね松あゝあゝ風ととあうや
いのさ松いそ人凡のうとあゝと石花松
けぞり琴ととやとあゝ松上ハ仕のあゝつく

どう **松** ナニ はどうもや 是れト云ふ ブイと ハハ

松 マヤ けふハ 龜を つかう 鹿を つかう つかう

サ カ 鹿ハ つかう ホコ つかう つかう 鹿ハ

つかう 鹿ハ つかう 鹿ハ つかう 鹿ハ つかう

つかう **松** ナニ はどうもや 是れト云ふ ブイと ハハ

松 マヤ けふハ 龜を つかう 鹿を つかう つかう

サ カ 鹿ハ つかう ホコ つかう つかう 鹿ハ

つかう 鹿ハ つかう 鹿ハ つかう 鹿ハ つかう

つかう **松** ナニ はどうもや 是れト云ふ ブイと ハハ

松 マヤ けふハ 龜を つかう 鹿を つかう つかう

サ カ 鹿ハ つかう ホコ つかう つかう 鹿ハ

つかう 鹿ハ つかう 鹿ハ つかう 鹿ハ つかう

つかう **松** ナニ はどうもや 是れト云ふ ブイと ハハ

松 マヤ けふハ 龜を つかう 鹿を つかう つかう

サ カ 鹿ハ つかう ホコ つかう つかう 鹿ハ

つかう 鹿ハ つかう 鹿ハ つかう 鹿ハ つかう

つかう **松** ナニ はどうもや 是れト云ふ ブイと ハハ

松 マヤ けふハ 龜を つかう 鹿を つかう つかう

サ カ 鹿ハ つかう ホコ つかう つかう 鹿ハ

まうたりて人をもどろねえんぞ傳も
わうてハテそねがもぬ免あへて得らるもあど
信あまてうふハあま松のあへけややか
がやうてあるといフ下がんと文のうじまやら
うめみんが持おの用ひう席下者うけ
せで鉄コレうねらやま無面圓をうの山陀
宣ハひらういふまを後輩ども思やがう大屋
さんごきうりの山陀圓も紙をひらひ物ひあひる一切入

あまも持料貸日ありけりひらきく信傳者持
の書ハ井いの事とあぶてあるいけあれ亡圓め生座
人あまうくハねふにまれたせこれさうでまひ
とやういふう人あへてあまもんませ二
人あまううちあてまへけちあまをせううついの三
んくごり傳もあまのゆるるさうや
れていふ傳もあまのゆるるさうや
お獨をさうてりう遠ハ鬼城主の人あへて
わうていふとあまもまひる人だれまひるのさう

花車よけんの夢。あんでも夏の秋夜にあらうてゑ
 くのやまをききつゝあまれけねう。生切
 小切のききうもつゝ。えきのおれにあらうや
 あらう。うねうねを平。そで安撫あやもふれ
 ねハエ **松** 竹うね **松** 竹うね **松** 竹うね
 しきへ入るこもれがくちせいありあ人を **松** 竹うね **松** 竹うね
 ききう内ハあらうきりの故にあらう **松** 竹うね **松** 竹うね
 せき。ききうききうききう **松** 竹うね **松** 竹うね
 ねも **松** 竹うね **松** 竹うね **松** 竹うね **松** 竹うね

[illegible]

夕
共
子
子
子
子

著者
コレサ

やんぐらう

[illegible]

寧寧

大ぜい

モウ

いんげん

るがけ

跌

つらきそやけ。とあつちがあらう。

三才圖會

多
レ
本
秋

だやア。佐々木の表えや茶。

の玉子

えんぎりき

子。あゝあゝ

くさ

何もの内なるものや移入^{こく}する

や
ち
ら
ハ

長
解方

もろから。まゐる久し。痔瘻をあらへ。

て
大
子

くで虫とさうや。あゝくれさぞ

五

ハ。コト

中の字のうゝ川を考へ小

義

月を以てて^{いそ}異二

の
梅
枝

とち。

三や
 の船として舟のまゝはなれ

春

公
ち
よ
や
ア
想
う
ん
る
や
ち
は
等
之
実

子

の
る
は

てきやてめがや
いどき
を食やうあ

子

それや。ふめらぐまとなつてふたふたや。ふたふたや。

とま
只今の

[illegible]

W
A
A

けこつて改つてせざるう 二 ナニ 三 一書 四
 ぐわう。さうあがもやわくのさ 五 ち 六 ち 七 ち 八 ち 九 ち 十 ち 十一 ち 十二 ち 十三 ち 十四 ち 十五 ち 十六 ち 十七 ち 十八 ち 十九 ち 二十 ち 二十一 ち 二十二 ち 二十三 ち 二十四 ち 二十五 ち 二十六 ち 二十七 ち 二十八 ち 二十九 ち 三十 ち 三十一 ち 三十二 ち 三十三 ち 三十四 ち 三十五 ち 三十六 ち 三十七 ち 三十八 ち 三十九 ち 四十 ち 四十一 ち 四十二 ち 四十三 ち 四十四 ち 四十五 ち 四十六 ち 四十七 ち 四十八 ち 四十九 ち 五十 ち 五十一 ち 五十二 ち 五十三 ち 五十四 ち 五十五 ち 五十六 ち 五十七 ち 五十八 ち 五十九 ち 六十 ち 六十一 ち 六十二 ち 六十三 ち 六十四 ち 六十五 ち 六十六 ち 六十七 ち 六十八 ち 六十九 ち 七十 ち 七十一 ち 七十二 ち 七十三 ち 七十四 ち 七十五 ち 七十六 ち 七十七 ち 七十八 ち 七十九 ち 八十 ち 八十一 ち 八十二 ち 八十三 ち 八十四 ち 八十五 ち 八十六 ち 八十七 ち 八十八 ち 八十九 ち 九十 ち 九十一 ち 九十二 ち 九十三 ち 九十四 ち 九十五 ち 九十六 ち 九十七 ち 九十八 ち 九十九 ち 百 ち 百一 ち 百二 ち 百三 ち 百四 ち 百五 ち 百六 ち 百七 ち 百八 ち 百九 ち 百十 ち 百一十 ち 百二十 ち 百三十 ち 百四十 ち 百五十 ち 百六十 ち 百七十 ち 百八十 ち 百九十 ち 二百 ち 二百一 ち 二百二 ち 二百三 ち 二百四 ち 二百五 ち 二百六 ち 二百七 ち 二百八 ち 二百九 ち 三百 ち 三百一 ち 三百二 ち 三百三 ち 三百四 ち 三百五 ち 三百六 ち 三百七 ち 三百八 ち 三百九 ち 四百 ち 四百一 ち 四百二 ち 四百三 ち 四百四 ち 四百五 ち 四百六 ち 四百七 ち 四百八 ち 四百九 ち 五百 ち 五百一 ち 五百二 ち 五百三 ち 五百四 ち 五百五 ち 五百六 ち 五百七 ち 五百八 ち 五百九 ち 六百 ち 六百一 ち 六百二 ち 六百三 ち 六百四 ち 六百五 ち 六百六 ち 六百七 ち 六百八 ち 六百九 ち 七百 ち 七百一 ち 七百二 ち 七百三 ち 七百四 ち 七百五 ち 七百六 ち 七百七 ち 七百八 ち 七百九 ち 八百 ち 八百一 ち 八百二 ち 八百三 ち 八百四 ち 八百五 ち 八百六 ち 八百七 ち 八百八 ち 八百九 ち 九百 ち 九百一 ち 九百二 ち 九百三 ち 九百四 ち 九百五 ち 九百六 ち 九百七 ち 九百八 ち 九百九 ち 千 ち 千一 ち 千二 ち 千三 ち 千四 ち 千五 ち 千六 ち 千七 ち 千八 ち 千九 ち 千十 ち 千一十 ち 千二十 ち 千三十 ち 千四十 ち 千五十 ち 千六十 ち 千七十

つうぐとまゐや二あやね。何百あがらぬ山を
 れねやあやしく（ニ）又とこまづてけふニ
 が行内し郵やあやまらるる世のい事とあや
 八能はつたりのど。アとアお花を花にけり
 てもわきまらる。今アア是れとていふ（七）かへ
 つてのたづねまむあやしく（ニ）ホニサ
 候があややアア。実をよあがを喜ぶ。一
 へハ幼きあやしくいふ今まづ。あにけり

う。そよはゆきぐあふときてわう。あで
たまふやアふせん。松柳屋書人ボエ
面がうらう。てんぐれ奉抱てさばんぞと
かきわくとも。の。田代とん。まふあ
き。送。て。店。は。は。氏。と。さ。る。商。と。さ。る。あ。う
ろく。通。の。う。が。あ。ゆ。も。は。わ。く。あ。う。う。う。
が。肉。を。見。む。あ。れ。と。バ。の。を。か。あ。う。肉。を。あ。
菜。と。ハ。口。柳。さ。が。自。然。は。煮。て。も。う。て。わ。い。さ。か

る。松柳ののやんぐらう。は。て。う。う。う。う。う。う。
く。よ。ま。び。む。き。ま。う。う。う。う。う。う。う。う。
れ。と。あ。く。さ。れ。て。も。柳。う。け。ハ。柳。わ。く。さ。や。あ
ら。な。う。う。の。通。の。う。が。は。し。を。わ。く。ソ。ミ。テ。の。熱
菜。が。や。う。い。ま。今。の。う。あ。う。馬。麻。の。む。き。は。て
ま。わ。く。さ。わ。く。の。う。い。に。む。き。う。う。う。う。う。う。
んで。明。ふ。さ。あ。あ。う。う。妻。が。遠。入。て。ま。つ。
や。う。あ。菜。さ。[松]け。を。わ。く。う。う。う。う。う。う。う。

う^ミニ内やうてゑとくうやうやうな^長富^ふき
 馬^{うま}の内ハもぞ若^{わか}どといふやうな^ミソ^そサ^さあまこハ
 初^{はつ}速^{すみ}さん^{さん}がき^きれ^れて^てもぞ好^すま^まざう^{ざう}今内中^{いまうち}に
 ち^ち屋^やも琴^{こと}や^やと^と確^{かく}保^ぽと^とも^もね^ね若^{わか}ハ^ハ石^{いし}の中^{なかつ}に
 あるて^{あるて}若^{わか}て^ても^も佐^さ佐^さ屋^やハ^ハも^も今^{いま}ぞ^ぞや^やも^も若^{わか}ど^ど長^{なが}ま^まあ^あひ
 び^びど^ど王^{おう}智^ち能^にの内^{うち}ハ^ハ店^{てん}若^{わか}の^のう^うく^くす^すも^も用^{よう}ど^どの^のミ^ミヤ^ヤ
 ち^ち店^{てん}の^の店^{てん}と^と新^{しん}川^{かわ}の^の店^{てん}ハ^ハ何^{なに}も^もの^の内^{うち}く^くの^のう^うく^くも^も
 が^がい^いう^うう^うけ^けあ^あま^まこ^こハ^ハや^や店^{てん}の^のも^もあ^あが^がた^たん^んと^とぞ^ぞさ^さも^もワ

こゝろつ内あや、あしふけは内中々巻くやうど
 来るといひけんうに「イサハ」えんと。おれとえん、中であ
 りてふふせんと。おれさん、内けりうとてうへ。
 ちゅう一めんりやせれたまの格致で、わうら
 てうめせん。多岐部をへかきりと。又附きよに
 けんさ別海のおもごとく、度々あるかまのやあねへ
 出あつたものぞうやうと。ぶぶ奥市場にもねこ
 とやう。安くハされたり。あしうで、おれハあるり

第四韵

朝更の光景を看るに

朝更の光景と者に
にやげれてナリリンのまゝいそぐに而巳△
客をよて辨せられバ別れの物もひき返さず哀歌の下ねりも
うへをせざるよりぬゆ川床より也かたにうけたる子どろあを匿く
けこそあらうハ異後夜のも代々として入るにあらむといふ三毛
ーいのさんとはにいれぬ衣のせんつらん馬車その常として
かたはぬふいとどうなるかどうあらんひろうものお陰をぬけさ
るて

店者 どうやく あらう早ひるものや

原田君さん今何時かにどうもきて

店 ヲヤ

中 今何時か

[illegible]

そそやうて 店 びくしめやうとて 女 女を
かき 店 びくしめのいづくんあいの 女 女を
おとし 女 女をいづくんあいの 店 女をいづくんあいの
いづくんのわはをいづくんあいの 店 女をいづくんあいの
よこちをいづくんあいの 店 女をいづくんあいの
いの 店 女をいづくんあいの 女 女をいづくんあいの
ハあいの 店 女をいづくんあいの 女 女をいづくんあいの
と 店 女をいづくんあいの 女 女をいづくんあいの

六十八

ト 女 女をいづくんあいの 店 女をいづくんあいの
びくしめのいづくんあいの 店 女をいづくんあいの
いづくんのわはをいづくんあいの 店 女をいづくんあいの
よこちをいづくんあいの 店 女をいづくんあいの
いの 店 女をいづくんあいの 女 女をいづくんあいの
ハあいの 店 女をいづくんあいの 女 女をいづくんあいの
と 店 女をいづくんあいの 女 女をいづくんあいの

新川義孝

ねどやアあれね^女そのまづさ。ねどもさうく
く^女あうね^女若^若よまづ^若若^若代^代会^会家^家もさ
と。あその内と。三軒の^三休^休部^部を^を。表^表二^二階^階よ^よ内
も^も新^新部^部を^を。表^表二^二階^階よ^よ内
あ^あれ^れが^が二^二川^川を^を。三^三軒^軒を^を。王^王智^智や^やと。古^古預^預庫^庫に^に三^三新^新ハ
た^たに^に三^三休^休部^部を^を。あ^あれ^れが^が二^二川^川を^を。三^三軒^軒を^を。王^王智^智や^やと。古^古預^預庫^庫に^に三^三新^新ハ
も^も古^古部^部を^を。あ^あれ^れが^が二^二川^川を^を。三^三軒^軒を^を。王^王智^智や^やと。古^古預^預庫^庫に^に三^三新^新ハ
此^此秋^秋に^に新^新部^部を^を。あ^あれ^れが^が二^二川^川を^を。三^三軒^軒を^を。王^王智^智や^やと。古^古預^預庫^庫に^に三^三新^新ハ

あせの^あが^がう^うハ^ハサ^サ。そ^そこ^こで^で。新^新部^部を^を。あ^あれ^れが^が二^二川^川を^を。三^三軒^軒を^を。王^王智^智や^やと。古^古預^預庫^庫に^に三^三新^新ハ
と^とあ^あつ^つて^てあ^ある^る。あ^あれ^れが^が二^二川^川を^を。三^三軒^軒を^を。王^王智^智や^やと。古^古預^預庫^庫に^に三^三新^新ハ
別^別よ^よう^うつ^つて^て。市^市の^の見^見者^者ハ^ハ。新^新部^部を^を。あ^あれ^れが^が二^二川^川を^を。三^三軒^軒を^を。王^王智^智や^やと。古^古預^預庫^庫に^に三^三新^新ハ
新^新で^で。新^新部^部を^を。あ^あれ^れが^が二^二川^川を^を。三^三軒^軒を^を。王^王智^智や^やと。古^古預^預庫^庫に^に三^三新^新ハ
毛^毛を^を。あ^あれ^れが^が二^二川^川を^を。三^三軒^軒を^を。王^王智^智や^やと。古^古預^預庫^庫に^に三^三新^新ハ
が^があ^ある^る。あ^あれ^れが^が二^二川^川を^を。三^三軒^軒を^を。王^王智^智や^やと。古^古預^預庫^庫に^に三^三新^新ハ
ね^ねら^らう^う。あ^あん^んな^な。あ^あれ^れが^が二^二川^川を^を。三^三軒^軒を^を。王^王智^智や^やと。古^古預^預庫^庫に^に三^三新^新ハ
穴^穴を^を。あ^あれ^れが^が二^二川^川を^を。三^三軒^軒を^を。王^王智^智や^やと。古^古預^預庫^庫に^に三^三新^新ハ

[illegible][illegible]

[illegible]

甲斐の姫妓どもあはれなくやんやうで
邪や佛がにときくわう云開てて黄てんふ
ぐや客ハ崇りてたえめんあゝぢぎべらうく
やうして獲ぐまづころひめておめんのさぞとくや
く屏風を後こそあの遠き羅字金のかしら振
ざんせつ
どうもやうからうそせうゆゆのたまこ二書せ
んじゅうぶ
んどろろとあらば屏風の絵ともちやうで落
彩色にぬぐる。すく利ほそひびで人

まてやうや

ていよまをばあやとまが
らねいそとつていそとつ

下ぎはな

そふ

長安の界

まてやうや内首尾ちく幼南まふたけれいふ勇時
保老の男とありうきとそとそとふの居る

ひうのそとそとふに解てひう人の
まてやうとそとふに解てひう人の

そふ
例

何うさうこれいそとつていそとつて
そとそとふいねうそとつていそとつて

部の調子と今般の接接まふまふ
何うさうこれいそとつていそとつて

何うさうこれいそとつていそとつて
そとそとふいねうそとつていそとつて

すのいそとつていそとつて
そとそとふいねうそとつていそとつて

らもゆ人ううとそとつていそとつて
そとそとふいねうそとつていそとつて

人間でもあるうとそとつていそとつて
そとそとふいねうそとつていそとつて

れもさげさげ。そとつていそとつて
そとそとふいねうそとつていそとつて

とつていそとつていそとつて
そとそとふいねうそとつていそとつて

はは通のそとつていそとつて
そとそとふいねうそとつていそとつて

そとつていそとつていそとつて
そとそとふいねうそとつていそとつて

そとつていそとつていそとつて
そとそとふいねうそとつていそとつて

れがひうとそとつていそとつて
そとそとふいねうそとつていそとつて

親^{おや}とつてゐる勢ふさうしてどうもうめん々。そのやア名
 代のづまき世のほのろひい、西れけさ家出とく
 つくあうやアあむ家なれとらで強ぐのを
 ら也免^{かん}も工面^{くわめん}も入るなりありは邪^{よこしま}えんが捻^{ひね}
 たうに返差^{かへり}もあやうくて持^{もち}の用^{よう}めも解^{かい}
 やしめて船^{せん}のあまをきかそうど屋^やを上^あつた
 お客^{きやく}ぶらで居^ゐてもいけやぬしい世^よえ人縁^{えん}
 切^き握^ぎぶよくあつてあらんあせ^せ女^メコレサあわ^わミヨハ

[illegible]

ころん
 ころんて 病^い利^りも 雅^いも ち^いね^い人^いでる。地^ち
 も け^いら^いい^い 祇^いホ^いの^いね^い コ^い ち^いも^い一^い
 病^い ち^い今^いぞ^い ち^いそ^いも^い ち^いあ^いて^いん^いか^い今^い又^い
 ころん^いと^いも^いよ^いあ^いわ^いか^いな^いに^いな^いさ^いま^いは^い
 ころん^いの^い一^い代^いに^いを^い後^いで^いあ^いせ^いよう^い ち^いあ^いの^いん^い
 ころん^いで^いト^い人^い十^い人^い更^いに^い百^い人^い ち^いあ^いの^いん^いも^いも^い也^い
 男^いで^い夫^いの^いま^いは^い面^いの^いく^いの^いち^いと^いい^いん^いの^い又^い也^い
 ころん^いと^いも^い通^いる^いま^い ち^いあ^いの^いん^いも^いも^い ち^いあ^いの^いん^い

[illegible]

横より又横に渡のうらまゐるを則ち市場の
道具立て△一キ

△船ハ新市場の中程へつる以傍中より船後と仰て二乃
色を川やどけバみ紙をまきまいかきわけて紙をゆすてうに
有る文字あり細ぞあるんとか掛けバ紙をえある其の文章

利よりおとありり〜切よりふ
ーろすり〜ほ〜そのん
はどひ〜かごの舟やきき
ゆけ合はとも〜とや〜とあも

あねるね〜か〜のあや〜ら〜と
とま〜くあ〜ま〜ら〜と
〜か〜や〜と〜あ〜ら〜とび〜と
さち〜は〜らん〜めん〜あ〜そ〜け〜と
はあ〜の〜め〜く〜と〜さ〜と〜と〜と〜と
り〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
あるゆ〜く〜ま〜と〜あ〜の〜め〜と〜ま〜ら
く〜と〜と〜の〜め〜と〜と〜ら〜と〜と〜と〜と

ともも ^ひきたあふくさ何もの
中^{なか}秋のすくまのいばるをえん
がくむねくさうくあぢき
^{うきうき}いっけとてさくはなほぞ
去^こ年の雲ぞ入せうあぢき
うきうきとれ等福ひより
そつとそれとれとえにまぢれ
うきうきとれ女と名^{おな}のわどくあは

ふらふらうくさぐさ　あふあふせぬが
あーはあまぐさねんそいひのうち
えききだやうりーあんあまぐさ
しきらくせうともあててびん^{ちん}
めいあまぐさうくわめむねのうら
あーうさなそれのそねんどりー
うぬあつとろのせもあんなあれど
かうあまぐさうくさびぐーさびぐ

是より第五齣

辰巳七軒堀や西親里に世界

附言

来春三編おひき奉八郎寛候

柳や西が性質行状善るを且悪る平つまで

知るくぞ前編長五郎は偕差の約を契りて

二客を廢後編藤兵衛同穴の情と通と箇

壯夫を倍乗必竟是れ正是はきれてるらん

トツチ頓又立ちこれ必終に呼薄情浮世三昧

船頭深話 大尾

古書鋪 成言

石川右衛門の通所

石川右衛門の通所

